

現代芸術論におけるデザイン学生の授業感想と教員からの通信 #1

ダダイズムからポップアートと1960年代の美術までの現代美術

上遠野 敏

札幌市立大学デザイン学部

抄録：本研究は「ダダイズムからポップアートと1960年代の美術まで」の50年間の現代美術を分かり易く解説したものである。本学デザイン学部の授業「現代芸術論」での毎回の授業感想で書かれた学生の質問や疑問を、次回の授業までに筆者が返答を作成して「上遠野通信」として配布したものを基にしている。特に関連の深い記述を抜粋して、講義で教授した内容や、美術の考え方、学生からの質問や感想の分析と考察を交えて、現代美術の基本理念、表現の時代背景、表現の地域特性、作品概念、表現論の観点から明らかにした。デザインや芸術文化を創造するためには、先人の歴史を学ぶと同時に芸術文化も学ばなければならない。創造の源泉として、本研究が考え方の大きなヒントになるであろう。「ダダイズムからポップアートと1960年代の美術まで」を#1、「ミニマルアートからニューペインティングまで」を#2、「1980年代の美術～現在（2007年）まで」を#3とした。現代美術の系譜を通して作品の理解を深めることを目的としている。

キーワード：現代美術の基本理念、表現の時代背景、表現の地域特性、作品概念、表現論

I. 研究の背景・目的

芸術は「哲学の具象」である。特に現代美術は「時代を映す鏡」とも言われ、時代背景と密接な関係を結んだメッセージが現れている。それは表現の自由を最大限に保障している証である。しかし現代美術に対して本学デザインの学生を含め人々の情報は極端に乏しく、難解であり垣根が高いと感じているのが一般的である。鑑賞する側にも多少の知識を必要とするのは「美」の価値観が時代とともに変化して、創造の概念が拡張しているからと言える。本学2年生を対象にした「現代芸術論」の講義では、1910年代のダダイズムから2007年の現在までの流れを、先人のユニークな創造の作品スライドを見せながら、筆者が現代美術家としての目を持って易しく解きほぐした。表現の自由を尊重しながら、発想の展開を理解することは、デザイン活動においても自己の心を解放して創造空間を拡張してくれるものと確信している。

本研究では「ダダイズムからポップアートと1960年代の美術まで」の50年間の作品を通して講義した内容と併せて、学生から寄せられた質問に答えることによって、「現代芸術の基本理念、表現の時代背景、表現の地域特性、作品概念、表現論」の観点から現代美術の歴史を概観し表現の根幹を明らかにした。

学生の現代美術に対する戸惑いや興味は、授業を進めながら理解が深まり親しみへと変化する心理も読み取ることができる。本学の特徴である看護学部との学部連携

の授業においても、デザイン教育においても現代美術の創造の歴史を系譜を通して理解を深めることは、人間性をより豊かにして、デザインや看護の専門性をより拡充することが期待できる。

II. 研究方法

1. 現代芸術論について

受講生 88名、本学デザイン学部2年生 76名、札幌市立高等専門学校専攻科1年生 12名。

選択科目、2年次前期、90分×15回、2単位

〈科目のねらい〉

現代芸術の基本理念とその特徴を、時代背景や地域特性とともに概説する。モダンアート、ダダイズム、シュルレアリスム、抽象表現主義、ポップアート、ミニマルアート、アースワーク、コンセプチュアルアート、ポストモダニズム等について、代表的な作家の作品を紹介しながら、歴史的・地域的特徴について概観する。

〈授業の目標〉

- 20世紀から現在までの現代芸術が系譜を通して理解することができる。
- 現代芸術の理解を深めることによって、デザインの専門性を拡充することができる。
- 表現の自由を尊重し、発想の転換や創造の概念を学ぶ。

表1 現代芸術論シラバス

第1回	現代美術概説：モダンアートから現代までの流れ1	アート関連：ショートフィルム紹介1
第2回	現代美術概説：モダンアートから現代までの流れ2	// 2
第3回	芸術の転覆①：マルセル・デュシャンの反芸術的たぶらかし	// 3
第4回	芸術の転覆②：ダダイズム, シュルレアリスム	// 4
第5回	脱イリュージョン：抽象表現主義, アンフォルメル, 具体美術	// 5
第6回	大衆文化の夜明け①：ネオダダ, ポップアート, フォトリアリズム, オブアート	// 6
第7回	大衆文化の夜明け②：ブリティッシュポップ, ニューボレアリスム, ネオダダ・オルガナイザーズほか	// 7
第8回	概念の構築：ミニマルアート, プライマリー・ストラクチャー, コンセプトチャルアート	// 8
第9回	物の言葉を聴く①：アースワーク	// 9
第10回	物の言葉を聴く②：アルテポーベラ, もの派	// 10
第11回	ポストモダニズム①：ニューペインティング	// 11
第12回	ポストモダニズム②：1980年代の美術・アートメディアとしての写真, ニュースカルプチャーなど	// 12
第13回	多様化する表現：1990年代の美術・シミュレーションほか	// 13
第14回	物質と非物質の行方：現在の美術	// 14
第15回	映像アートの検証	

〈授業の流れと内容〉

第1回から第7回までの講義の現代美術のながれが本研究の考察事項である(表1を参照)。

授業では豊富なスライド資料と映像資料, レジュメ, 参考資料を用いて行われる。第1~2回の現代美術概説をふまえ, 第3~4回, 芸術の転覆:現代美術の祖と言われるマルセル・デュシャンを中心に取り上げ, ダダイズムやシュルレアリスムの作品を紹介した。併せて, 当時の美術である, キュビズム, フォービズム(野獣派), 表現主義, 構成主義, デ・ステル, 未来派, 抽象などの作品との関連や違いを検証した。第5回の脱イリュージョン:抽象表現主義, アンフォルメル, 日本の具体美術では, 自然や事物の再現を目的としない美術を紹介した。第6回では, 大衆文化の夜明け①:ネオダダ, ポップアートとそこから派生したフォトリアリズム, オブアートを取り上げた。第7回では, 大衆文化の夜明け②:ブリティッシュポップ, ニューボレアリスム, 日本のネオダダ・オルガナイザーズ, ハイレッドセンターを取り上げた。

同時に, アート関連のショートフィルムも毎回紹介している。アート系の映像は, マスメディアに取り上げられることも少なくマイナーとも言える。しかし良質な映像が多く学生の感性と知識を立体的に涵養するために行っている。映像についての考察は別稿で取り上げる。

2. 学生の授業感想について

「現代芸術論」では毎回の授業終了時に講義の感想を書

いてもらっている。授業感想は出欠確認もかねている。真摯な感想が寄せられて, 授業内容が伝達できていることが確認できる。講義で聞き漏らしたことや疑問に思ったことの質問も多いことが分かった。2回目の授業から毎回, レジュメと併せて授業感想や質問, 疑問に答えるA4サイズ, 8ページの「上遠野通信」を発行した(図1)。学生との往還の中から, 現代美術が系譜を通して理解することが可能な110ページを超えるテキストを作成した。

本研究では「ダダイズムからポップアートと1960年代の美術まで」の上遠野通信の中から, 特に関連事項の深い学生の質問と筆者の答えの記述を抜粋した。意味の補完をするために, 各美術様式の講義内容の簡略な説明と



図1 レジュメと上遠野通信

紹介した作家も併せて掲載した。

III. 研究成果と考察

「ダダイズムからポップアートと1960年代の美術まで」の50年間の美術様式の変遷のながれから「現代芸術の基本理念、表現の時代背景、表現の地域特性、作品概念、表現論」の観点で、学生の授業感想や質問を交え現代芸術の歴史を概観し表現の根幹を明らかにする。

1. 芸術の転覆：ダダイズム、シュルレアリスム

1-1. ダダイズム（ダダ）1910年代中頃～

ダダイズムの運動によって変革された美術の概念から現代美術の始まりと言われている。特にマルセル・デュシャンによって創られた概念の影響は、今でも現代美術の水脈となって現れている。ダダイズムまたはダダは第一次世界大戦によって多くの犠牲者を出した近代文明の懐疑と批判から生まれた反芸術運動である。詩人のトリスタン・ツアラが命名をした。ダダの呼称にさしたる意味は込められていない。文章の前後を意味脈絡なくつなぎ合わせた文芸やチューリッヒのキャバレー・ヴォルテールでの公開イベントなどから始まり、これまでの自然を再現する美術の文脈を否定して、反芸術と言える表現で芸術の転覆をねらった。フォトモンタージュ、アッサンブラージュ、コラージュなどを駆使して社会批判を現した作品が多い。チューリッヒからヨーロッパのいくつかの都市やニューヨークに波及した。

重要人物：マルセル・デュシャンの反芸術的たぶらかし

フランス出身。現代美術の祖と言われ、20世紀を代表するアーティストの一人。マルセル・デュシャンの影響を抜きに現代美術を語るができない。キュビストから批判を受けた「階段を降りる裸体 No.2」はアメリカのアーモリーショーで絶大な支持を受けた。以後渡米してニューヨーク・ダダの中心的存在となる。何も作らずに創る既製品を使ったレデ・メイドのオブジェを提示。男性便器を横にして、便器会社の社長の名前をサインした作品「泉」が有名。この作品は自らが展示委員であったアンデパンダン展に匿名で出品。不謹慎であると展示されず紛失となる。展示委員であるデュシャン自ら抗議文を新聞に掲載して話題づくりをするなど「たぶらかし」の企てを行い「泉」を神話化させたことで有名。「彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁さえも」通称「大ガラス」は代表作。花嫁が独身者たちと永遠に結ばれることのない観念と記号のガラスの絵画作品。移送中にひび割れが入ったことも喜んだと言う逸話もある。難解なメ

モや制作ノートが入った「グリーンボックス」は「大ガラス」と対の作品と言える。後年の研究者や「大ガラス」再制作者が分析することで謎が深まり、より混乱するように仕掛けられている。

その後チェスの名手として活躍し作家活動休止と見せかける。死後、「のぞき穴」の作品。愛人との結ばれることのない永遠の愛をテーマに精巧に作った裸体が横たわる、「(1)落ちる水、(2)照明用ガス、が与えられたとせよ」を発表して世間を仰天させた。のぞき穴から見る作品は、死後15年は一切の作品写真の掲載を禁止して、足を運んだ人のみのぞき穴から作品を観ることができるなどの話題作りをするなど、自分の人生や死さえゲームの様に作品の構成要素とした。

ダダリスト：マルセル・デュシャン、マン・レイ、クルト・シュビッターズ、マックス・エルンスト（後にシュルレアリスムに移行）、フランシス・ピカビア、ラウル・ハウスマン、ゲオルグ・グロスの作品を紹介。

1) 学生の質問・疑問と教員のコメントから

ダダを代表するマルセル・デュシャンやダダの作家や作品について、学生の質問・疑問と筆者の答えて意味を補完し概観する。現代美術のなかでも最大の変革者、マルセル・デュシャンの反芸術を意図した作品には、これまで教わった美術とまったく性格を異にするため、学生の美術に対する規範や価値観が揺らぐようである。美術とは、かくあるべしに一撃を与える。日本の美術教育は印象派以降をあまり触れない社会的構造がなぜかある。

Q1. デュシャンの「階段を降りる裸体 No.2」は、なぜ他のキュビストから批判されたのか、キュビズムとの違いが分かりません。

キュビズムの絵画とは、パブロ・ピカソとジョルジュ・ブラックが始めた動向で画家がモチーフや人物などの対象の周りをめぐり、1枚の平面上（キャンバス）に多方向から見たものを描いた絵画を言います。横から見た顔と正面から見た顔などが同一画面に描かれています。デュシャンの「階段を降りる裸体 No.2」はキュビズムの作法の上に時間概念の連続する運動を現しています。他のキュビストにとっては、裸体は横たわるものであって運動して階段を降りることに対して批判したのです。イタリア未来派の連続する動きを1枚の絵に描き込む方法にも近いモノを感じて嫌ったのでしょうか。キュビスト達は兄をつかって、せめてタイトルの変更でもと打診したそうです。デュシャンは会場から作品を外して持ち帰ったそうです。やはりショックだったらしく、デュシャン

はミュンヘンに向かいました。パリからはなれ一人になる時間が必要だったようです。ミュンヘン滞在の中から「大ガラス」の構想が始まりました。彼はそれ以来、一切集団に所属することを嫌って孤高を貫きました。

Q 2. デュシャンの絵画をもっと見たかったです。

デュシャンの初期の絵画の時代は、わずか8年足らずでした。この期間をデュシャンは「水泳訓練」のようであったと述べています。印象派風、フォビズム(野獣派)風、キュビズムとスタイルを次々に習得しては変遷していったようです。ついには、絵画を放棄してしまいました。網膜に訴える1点崇拜主義に対する反動と、絵画を超える概念(大ガラス構想やレデ・メイド構想)が見つかったからでしょう。

Q 3. マルセル・デュシャンに対しての「反芸術的たぶらかし」とは良く言い得ていると思いますが、よく使われる言葉ですか？

デュシャンの芸術に対して、「反芸術」や「芸術の転覆」は良く形容される言葉です。「たぶらかし」は森村泰昌の作品、デュシャンのローズ・セラビ(女装)に扮した作品を引用したセルフポートレートのタイトル「たぶらかし(マルセル)」から来ています。デュシャンの人生と芸術は、まるでゲームの様に仕掛けられたものでした。市販の便器「泉」をレデ・メイドとして仕掛けたのも、それまでの美術観を超えた「たぶらかし」と言えます。作品タイトルに意味深な言葉遊びを入れた、モナリザの絵葉書に描き込んだひげの作品も、鑑賞の読み取りを得て作品として完成する企てです。ローズ・セラビの女性名を使って作品も発表しています。死後に発表された、のぞき穴の作品「(1)落ちる水、(2)照明用ガス、が与えられたとせよ」はチェスに打ち込み作家活動を休止していたと見せかけて、20年間こっそりと制作した作品です。死んでから作品を発表して、墓碑銘は「されど死ぬのは他人」。やはり「たぶらかし」の達人です。

Q 4. マルセル・デュシャンの作品はどこで見ることができますか？

デュシャンの重要作品は、アメリカの「フィラデルフィア美術館」で見ることができます。アレンズバーグ夫妻のコレクションとキャサリン・ドライヤー所持の「大ガラス」(彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁さえも)が美術館へ寄贈されて常設展示されています。のぞき穴の作品「(1)落ちる水、(2)照明用ガス、が与えられたとせよ」と「大ガラス」はここでしか見ることが出来ません。「大ガラス」の公認レプリカは世界に4点あります。

その内の1点が、東京大学教養学部美術博物館の「大ガラス」東京バージョン(瀧口修造、東野芳明監修)です。

Q 5. フォトモンタージュとコラージュの違いは？

写真をコラージュしたものがフォトモンタージュ。コラージュは糊付けの意味。写真の普及は画家にとって大変脅威だったと思います。日本の浮世絵が衰退したのも写真が出て来たからほかなりません。しかしその脅威は、ニューメディアとして用いられました。デュシャンの「階段を降りる裸体 No.2」は連続する動きを捉えた写真の影響とされています。ダダイストにとっては、わざわざ絵を描かなくても写真を切り貼りして構成をするフォトモンタージュの面白さが時代のリアリティを表現するのに適していたのでしょう。コラージュ(パピエ・コレ)はピカソが発明したと言われており印刷物の発展と密接な関わりがあります。印刷物のリングを絵画の中に貼り付けても、リングとしての固有な言語を失わないことを発見したのです。いわゆる絵具と一緒にの考えです。脈絡のないものが激突して反芸術を目指したダダイストとの違いはそこにあります。ラウル・ハウスマンの「機械的頭部」のオブジェはアッサンブラージュと言いつつ立体版コラージュと言えます。

Q 6. マン・レイのソラリゼーションの写真の技法は。

マン・レイの写真には白黒が反転した表現がみられます。この技法は偶然出来た効果でした。助手で恋人の写真家のリー・ミラーがマン・レイの現像中の部屋のドアを開けてしまったのが原因です。現像液に印画紙を入れている段階に一瞬光を入れると現れます。レイヨグラフ(フォトグラム)はフィルムを使わず、印画紙の上に物を置いて感光させる写真でもマン・レイは有名です。ネガがなくても写真の作品が作れます。光を操りデッサンを描くように陰影を作れば良いのです。

Q 7. クルト・シュビッターズやマックス・エルンストのコラージュはポップアートに通じるような表現が見えます。

シュビッターズのコラージュやアッサンブラージュ(集積、集合)の作品を、「メルツ」と彼は命名しました。メルツ絵画やメルツバウ(建築)として収集物を貼付けていきました。マンガや雑誌も貼付けたのでポップアートの先例とも言えます。ポップアートの夜明けと言われていたネオ・ダダのロバート・ラウシェンバーグの寄せ集め絵画(コンバイン)と共通する表現が見られますのでうなずけます。エルンストはコラージュ、デカルコマーニ、フロッタージュ、ブロンズ彫刻など多岐に渡る技法

を駆使する作家です。作品もダダからシュルレアリスムへと変化した作家です。コラージュの作品にはマンガや挿絵などを使いポップアートそのものと言える作品もありますので予言者とも言えるでしょう。

2) 美術の見方考え方についての質問

第1～2回現代美術概説：モダンアートから現代までの流れや、ダダを代表するマルセル・デュシャンやダダの作家や作品から美術の見方や考え方に対する疑問も発生する。現代美術に対する興味の現れや、理解不能への拒否反応など、率直な心理状況を読み取ることができる。これは今後の美術・デザイン教育の上でも興味深い内容でもある。講義から受けた化学反応として答える義務があると考え、学生には体験や経験を通して自己啓発して欲しいと願っている。

Q1. どのような視点で作品を見ればよいのでしょうか？

まず名品と言われる作品を沢山見る事をお勧めします。例えば、焼き物は名品も凡庸な作品も材料はさほど変わりません。名品からは深い精神性と品格のオーラが発せられています。それを感じる心や審美眼を鍛えてください。鑑定眼とは違います。現代美術作品からは時代背景も読み取れます。作者がどのような状況で、何を表現しようとしたのかを感じられるとより理解が深まります。まず美術館や展覧会を見る事をお勧めします。

Q2. 作家の考えや表現がすごいです。どうしてこんな発想ができるのでしょうか？

何を作りたいのか、何を表現したいのかは、作家で各々違います。時代背景を背負う作家もいますし、作家の作るモノが時代を作っていく、と言う考えの方もおります。「つくる」を考えてください。作る。造る。創る。3つの言語から多様な意味が読み取れます。作家も、作品で表現を造る人、作品で概念を創る人など各々います。では、どのようなところから発想が出てくるのかと言うと、「思いつき」の下に地下茎がぞろぞろ続くような引き出しをいっぱい持っているとしか言えません。誰も歩かない荒野を開拓するのがアーティストの使命なのです。

Q3. 見せて貰った作品は、一目見ただけでは何が凄いのか分からなかった。説明を聞いても意味不明だった。この授業で紹介されるものは世の中の大半の人は知らなかつたり興味がないものだと思う。このようなものは自己満足なのだろうか。

全ての人々が芸術に関心がある訳ではないことは事実です。世の中には多様な価値観があるので、各自それに

従って生きていけば良いと思います。本講義が終了する頃には現代美術の考え方も変化して、ある種の世界観が見えてくると思います。芸術文化が人間の心を涵養する有効な手だてとなることを願っています。日本には「洗耳」と言う美しい言葉があります。この意味を考えてみましょう。

1-2. シュルレアリスム 1920年代～

ダダとシュルレアリスムの関係は二卵性双生児の関係と言えるでしょう。ダダからシュルレアリスムへと発展した美術や文学を指します。「超現実主義」と言います。現実を超越した意識下の世界。可視ではなく不可視の世界を現しました。フランスの詩人アンドレ・ブルトンはシュルレアリスムを「思考の真の機能を表現するための、純粋なオートマティズム(絵画的自由連想)。理性による支配をまったく受けないところで、そしてあらゆる美学的、道徳的先入観の外で記述された思考¹⁾」と定義しました(シュルレアリスム宣言1924年)。フロイトの夢や無意識、性などの精神分析と関係を結んだ表現と言えます。シュルレアリスム絵画には、大きく二つの流れがあり、マックス・エルンストやミロなどのオートマティズムやコラージュで無意識の世界を抽象的に表現したものと、サルバドール・ダリ、ルネ・マグリットのように夢や意識下の世界を具体的な人物や風景をつかってあり得ない現実を描いたものがあります。ヒトラーが台頭するとシュルレアリストたちはニューヨークに移り住んで、アメリカの次世代に大きな影響を与えました。彼らは、その後の抽象表現主義を生む萌芽となったのです。

シュルレアリスト：イブ・タンギー、ロベルト・マッタ、ジョアン・ミロ、サルバドール・ダリ、ルネ・マグリット、ポール・デルポー、マルク・シャガール、アルベルト・ジャコメッテ、アーシル・ゴーキーの作品を紹介。

その時代の他の美術

キュビズム、フォービズム(野獣派)、表現主義、構成主義、デ・ステル、未来派、抽象などの作品を紹介。

ダダ、シュルレアリスムとの関連や考え方の違いを検証した。ピカソやブラック、マチス、カディンスキー、タトリン、モンドリアン、キリコ、ボッチョーニ、ブランクーシなど20世紀を代表する作家も見逃せない。

1) 学生の質問・疑問と教員のコメントから

シュルレアリスムの作家や作品について、学生の質問・疑問と筆者の答えで意味を補完し概観する。摩訶不思議な世界観に興味を惹かれるようである。特に著名な

サルバドール・ダリやルネ・マグリットには関心が高い。
現在では幼稚園からの美術教育にコラージュ、デカルコマニー、フロッタージュ、想像画などが取り入れられているが、シュルレアリスムの果たした役割なのである。

Q 1. シュルレアリスムのダリやマグネットの絵にはトリックアートに通じる作品が沢山あった。

人々は、だまし絵が好きようです。現在あるトリックアートとは一線を画しますが、絵が分かり易いのでダリやマグネットは人々に受け入れられるのでしょうか。しかし人間の脳は分かりすぎると、それ以上の思考を遮断してしまいます。イブ・タンギーのように何が描かれているのか判然とせず、地獄のようでもありこころの中の深い模様でもあると言う方が見る人のイマジネーションが広がって深淵な世界に導くことが多々あるようです。

Q 2. シュルレアリスムを代表する作品の数々を見て、日常では感じられない発見出来ない感覚があるように思いました。ルネ・マグリットのパイプの絵が好きです。作品に共感するという気持ちが不思議なことに思えてきました。一体作品の何に共感を抱くのか、説明を求められて、すぐに答えられることではない気がします。もしかしら答えのないものなのかもしれません。作品を見ていて、ふっと感じたことでした。

マグリットのパイプの絵、「これはパイプではない」は、厳密には絵具とキャンバスそのものなのです。イメージの裏切りをねらったコンセプチュアルアートとも言えます。心を揺さぶられた瞬間に共感することが出来たのだと思います。ダダやシュルレアリスムの作品は無意識や意識下の世界などを表現しているので日常では体験出来ない世界を味わうことになります。美術を制作する作家は言葉を超えた世界を創造していますので、他者が言語化した意図を、鑑賞者が違う感じ方をしてもよろしいと思います。人を好きになるのに、さしたる理由が入らないのに似ています。

Q 3. サルバドール・ダリの絵は他の絵に比べリアルに感じる。他と同じグループに属しているのですか？

ダリのように脳内をそのままリアルに描けたら楽しいでしょうね。多重なイメージをCGで合成したように描ける想像力は、その裏に徹底した写実描写力の努力があるはずで、ダリは口ひげの特異な風貌と奇行で、とても人気のある作家でした。一時、シュルレアリストグループに属していたようですが除名になっています。しかしシュルレアリスムの国際展などには、外せない存在として一緒に展示されたようです。

Q 4. ダリの「ロブスター電話」は何に分類されるの？

古いダイヤル式の黒電話の上にロブスターが受話器となっている作品です。思わぬ出会いの作品はシュルレアリスムの特徴と言えるでしょう。象が竹馬をはいたような長い脚の作品や時計が柔らかくなって眠っているような風景なども、あり得ない現実です。シュルレアリスムの面白さはそこにあるのです。

Q 5. シュルレアリスムの夢に見た事などを絵にすることなど一体何を意味するのか未だに分からない。

著名な作家や小説家は夢をもう一つの人生として捉えています。つまり、起きているときも、寝ているときも人生を2倍楽しんでいる訳です。フロイトの精神分析などとリンクした時代背景から生まれた芸術とも言えます。自然を再現することを放棄した作家達は意識下の世界や夢にもう一つの世界観を見つけたのです。SFの小説や映画は、夢想から始まっているのではないのでしょうか。

Q 6. イブ・タンギーの作品が日本画に見えました。

イブ・タンギーは何とも不思議な絵を描きます。昼とも夜とも分からない。月面や海底の様にも見えます。荒漠とした世界にガスがたれこめ奇妙な物体や怪奇生物のような物が配置されています。空間はあるが奥行きがない画面は日本の昔の絵画の様に見えます。怖い夢の様な景色は日本の地獄絵の様にも見えます。

2) シュルレアリスム関連として映像作品の紹介

シュルレアリスムをより理解する手掛かりとして、現代の映像作家の作品を紹介した。美術の系譜は連綿として繋がっている。現在、見ている宇宙や怪獣映画などのSFはシュルレアリスムから始まっています。

Q 1. ヤン・シュヴァンクマイエルのアニメーションの意味が全然分かりませんでした。

チェコを代表するヤン・シュヴァンクマイエルのパペットアニメーションはシュルレアリスムの系譜の中から生まれました。人間の不条理を色濃く現しています。隣接する大国の体制に挟まれて苦悩したチェコの歴史の代弁者とも言えます。私たちは日夜見るメディアは、誰でも分かるような中庸なところに狙いを定めて制作されています。知らず知らずの内に受け取り手の意識の統制が行われているとしたら恐ろしい話です。世には中庸レベルの上も下も存在します。文学も科学もそうです。自ら疑問を持ち解いて行く姿勢も涵養したいと願っています。

3) 美術の見方考え方についての質問

シュルレアリスムの作品の内容に対して不思議な世界観があるため疑問が発生する。また、アーティストが職業として成り立つのか、デザインの学生らしい進路に対する心理も読み取ることができる。

Q 1. 芸術作品は分かりにくくて暗い印象のものが多いような気がします。人はそう言うものの方が深遠な魅力感じるのでしょうか。意味を持たせなければ価値は下がってしまうのでしょうか？

シュルレアリスムは潜在意識やオートマティズム（絵画的自由連想、自動書記）、夢などをモチーフにしていますので、他人の心や脳内をのぞくようなものです。心のひだの未だ触れられたことのない所を刺激されるようなものです。第一次と第二次世界大戦のはざままで、人々の苦悩と厭世観は相当であったかと推測されます。時代の空気や背景は、意図しなくても必然的に反映されると思います。暗い印象に見えるのもそのせいかも知れません。それが作品を意味が深く深淵な世界に導いていると思います。現在は時代背景が違いますので、作家は好きなことを、好きなようにやればよろしいと思います。

Q 2. この時代の作家はどのようにして食べていったのでしょうか。美術学校は沢山あったのですか？

1885年に東京美術学校（現・東京芸術大学）が開校、1880年には京都府画学校（現・京都芸術大学）が開校しています。1696年にはベルリン芸術大学が開学していますので、ヨーロッパなら美術学校は沢山あったはずですが、サロンやアカデミーに属していた作家は裕福だったでしょうが、アバンギャルドのダダやシュルレアリスムの作家は人々に理解されない美術だったので生活は相当苦しかったと思われます。今ではこれらの作品は手につけられないくらい高額の作品になっています。

2. 脱イリュージョン：抽象表現主義, アンフォルメル, 具体美術

2-1. 抽象表現主義 1940年代中頃～

アブストラクト・エクスプレッションニズムのこと。シュルレアリスムの影響から発生した絵画で行為（アクション）や激しい筆致、色面（カラーフィールド・ペインティング）などで画面上に再現性を目的にしない新たな抽象の場を作り出した。二次元のキャンバスの特性をより特化した作品を指す。詳細や補完は下記の教員コメントを参照。

ジャクソン・ポロック、マーク・ロスコ、ウエレム・デ・

クーニング、フィリップ・ガストン、フランツ・クライン、リチャード・ディーベイコン、クリフォード・ステイル、ハンス・ホフマン、ロバート・マザーウェル、ヘレン・フランケンサラー、アドルフ・ゴットリーフ、リー・クラズナー、モーリス・ルイス、サム・フランシスの作品を紹介。

1) 学生の質問・疑問と教員のコメント

抽象表現主義の作家や作品について、学生の質問・疑問と筆者の答えて意味を補完し概観する。巨大な抽象表現主義の絵画を実際には見たことがある学生は少数である。再現性を目的にしない行為を伴った絵画に、絵画そのものの意味を問い直すようである。絵が上手いとか下手とかの価値が開放されるのか質問も多い。多様な考えの絵画があることが望ましい。

Q 1. 抽象表現主義の作品はなぜ大きいのか？

厳密に言えば、抽象表現主義はアメリカの美術のみ適用されます。アメリカに亡命したシュルレアリストや前衛的アーティストなどの影響を受けたアメリカの若いアーティストが作り上げた抽象絵画を指します。抽象表現主義の台頭によって美術の中心はパリからニューヨークへ移ったと言えます。抽象表現主義の特徴は以下の通り。

- ①「巨大なキャンバス」：巨大な絵画が多く見るものを驚嘆させる。
- ②「オールオーバー」：どこに焦点を合わせているとも無く色面や線が広がっているので、画面上の外まで繋がるような空間を思わせる。
- ③作家の表現行為のフィールド（場）である。

Q 2. ジャクソン・ポロックの行為そのものが精神として現れています、そのような意味でよいのですか？

ジャクソン・ポロックの行為の絵画はアクションペインティングと言われます。キャンバスを床に置いて、油絵具やペンキ、エナメル塗料をしたたらせるドロッピングの技法で行為の軌跡と集積そのものが絵画です。絵画史上画期的な事件と言われています。行為の集積の場、二次元のキャンバスであることの特化、三次元のイリュージョンの排除、地球の重力などを意識して強靱な精神力で作られた作品は見る人を魅了して精神世界へ誘うのでしょうか。

Q 3. ジャクソン・ポロックのドロッピングアートの二面性ってどう言うことですか？

二次元である平面のキャンバスの特徴をより特化し

て、イリュージョンを排した行為の痕跡や集積が、結果として絵画の中に別な三次元的空間を作り上げたことを指します。行為の軌跡が集積となり時間の厚みとなり、地と図の間に空間が発生しています。

Q 4. モチーフやテーマなしで表現できるのが抽象表現主義の特徴ですか？

シュルレアリスムをより抽象化して、現実の風景やモチーフを再現することを目的としなかった。表現の源泉となる風景やモチーフを契機として沈潜させた上澄みを結晶化させたのが抽象表現主義の絵画といえるでしょう。アクションペインティングはそこに行為の集積を主要素として、より積極的に身体が関与しています。ウエレム・デ・クーニングはアクションペインティングと呼ばれていますが人物を素早い筆致で描いている例もあります。

Q 5. 抽象表現主義の絵画はユニークさ、親しみ易さは、誰でも出来る意外性をつくということからきているのでしょうか？

今回のレクチャーで抽象表現主義の絵画が好きとか、すごく自分の感性に合っていて受入れられたとの感想が多かったです。誰でも出来そうで、誰もが出来ない。未踏の荒野を開拓して道や畑を作ったのは抽象表現主義の作家たちです。最も身近な自己の行為そのものが作品となり、それが深い精神性となって現れることを発見したのです。皆さんの心と何らかの共振をしたと思われます。各々共振するものが違うので自分に合うものを探せばよろしいと思います。

Q 6. マーク・ロスコの絵画で説明していたシンメトリックってなんですか。

ロスコはロシアからアメリカへ移住した作家です。シンメトリー、シンメトリカルとも言います。左右対称のことです。ロスコの絵画は色面のシンメトリックでしたね。教会や寺院、神社の祭壇はシンメトリーな構成で、厳かで崇高な雰囲気を漂わせています。ロスコの絵画の前にたたずむと緩やかに膨らんでくる色面の中に身体が包まれます。宗教的な尊厳に近いモノを感じさせてくれる絵画です。体験してほしいと願っています。

Q 7. マーク・ロスコの自殺に関して：芸術家は自殺する人が多いのはなぜですか。それくらいでないとならないのですか。

人を殺めたり道連れにするようなら、ひと静かに消えると言う方法もあるでしょう。しかし肉親や近親者に与

える悲しみや精神的ショックはかなり大きいようです。自分の事しか考えないようなことは人間として寂しい気もします。人には愛を与え、見返りを求めないのが究極の愛だそうです。そうは行かない葛藤も人間の愛すべきところですが、芸術家だから自殺することが目立つのでしょうか。日本でも依然として自殺する方は多く、年間の交通事故死の3倍の3万数千人もいるそうです。自己を厳しく追及すると精神的に病む芸術家もいるでしょうが、要は狂気が芸術の本質ではないと言うことです。きわめてノーマルな精神と肉体を持ちながらも、創造する作品や脳内がアバンギャルドもしくは狂気であればよいのです。思わせ振りの身振りからは芸術は生まれません。

Q 8. フィリップ・ガストンの絵の変化にビックリしました。何か理由があるのですか？

フィリップ・ガストンは禅や書や墨絵に興味があったそうです。ジョン・ケージ（現代音楽家、禅や易学、連歌などに通じていた）とも親交がありました。日本ではあまり紹介されていないのが残念です。作品の変化については、どうやら K.K.K. によって犠牲になった人々や社会的な残忍さなどを表現しているそうです。彼はアメリカの良心と言われ、とても人気のある作家です。感想の中で、可愛いが、とても怖いものを感じると記した学生がいました。あの積み上げられた靴は、犠牲になった人々を現しているようです。止むにやまれぬ必然性があって彼の絵が変化したのでしょうか。やっと本物の自分の表現と出会ったのでしょうか。「人をだませても自己のこころはだませない」。

Q 9. モーリス・ルイスの流し込みの絵画を見ると、絵画に筆は必要ないのですね。

カラーフィールド・ペインティングを代表する作家モーリス・ルイスの絵画は美しい色の集積です。ステイニング（絵具を流し込み、染み込ませる）と言う技法です。アクリル絵具を緩く溶いで、立てかけた綿布に流し込みます。絵具を乾燥させては流し込みを繰り返す、綿布に色を染み込ませます。実物を見ると巨大な綿布のキャンバスに染み込んだ多層な色が驚くほど美しく、行為と作画がこれほどマッチした作品は珍しいでしょう。筆も描写力も必要としない絵画があってもよろしいと思います。

2-2. アンフォルメル 1950年代～

「非定形の美術」、アール・アンフォルメルとも言い、パリを中心に起こったヨーロッパ版の抽象表現主義。染み（タシスム）や分厚い絵具をストロークしたり、絵具

チューブでキャンバスに直接絵を描いたり、土や粘土、アスファルトなどの物質を絵具に混ぜ、素材を重視した作品などの抽象絵画を指します。パリにいた各国の画家や日本人の画家も大勢参加しました。

ジョルジュ・マチュー、アルベルト・ブーリ、ピエール・スラージュ、アントニオ・タピエス、ジャン・フォートリエ・今井俊満、堂本尚郎、森田子龍(墨人会)、ジャン・デュビュツフェを紹介。

1) 学生の質問・疑問と教員のコメント

アンフォルメル作家や作品について、学生はジャン・デュビュツフェのオール・ブリュットのユニークな作品に興味を示している。森田子龍(墨人会)の前衛書はアンフォルメルではないが関連として提示した。学生の心をつかんだようである。

Q 1. ジャン・デュビュツフェの作品はどこで見られますか。

彼は美術における権威主義を嫌い、アンフォルメル作家と呼ばれるのも嫌いました。生(き)の芸術、オール・ブリュットを提唱して、子供や未開の人々、精神に病んだ人々の絵を収集・展示をして、自己の作品の源泉としています。初期の絵画作品は土、砂、アスファルトなどの物質を絵具に混ぜて、壁を引っ掻いたようなとぼけた人物像などを描いていました。ポリウレタンの大きな「4本の木の群れ」はニューヨーク近代美術館(MoMA)にあります。パリのポンピドーセンターにも絵画やうねうねとしたユニークなウレタン彫刻があります。「ダンディー」は箱根の使者として箱根彫刻の森美術館にあります。

Q 2. 日本人は書のようなものになぜ惹かれるの？

森田子龍(墨人会)の書は、抽象絵画みたいでもあり、それを超える精神世界を見せてくれました。抽象表現主義のフランツ・クラインやロバート・マザーウェルの絵は書みたいです。サム・フランシスの絵画は墨蹟のにじみや余白のように見えます。日本の書の漢字は象形文字なので、文字自体に有形の姿をイメージ出来るからでしょう。禅の影響で無や空白、余白の美学を私たちの身体に入っているからだと思えます。実際の書は和紙に書かれ、滲みを自在にコントロールするために「どうさ止め」と言う、ニカワとミョウバンを混ぜた液を薄く塗布しています。書き上げた後は表具屋さんで裏打ち処理してあります。

2-3. 具体美術とは 1954年～

抽象表現主義、アンフォルメルと同時期に日本でも同様な美術運動があった。具体、具体美術協会とも言う。関西の芦屋で吉原治良を中心に結成され世界的に著名な運動であった。行為の結果が作品になると果敢に実験した美術である。詳細や補完は下記の教員コメントを参照。

吉原治良、白髪一雄、村上三郎、元永定正、田中敦子、金山昭、嶋本昭三の作品とパフォーマンス映像を紹介。

1) 学生の質問・疑問と教員のコメント

日本発の国際的な美術動向である具体美術。学生の祖父、祖母にあたる世代の人々のパフォーマンスや実験活動に対するエネルギーの熱意に驚いたり感心したのが実情であろう。長らく日本は、ヨーロッパ美術の模倣を展開してそれを評価してきた歴史がある。ここにきてようやく独自の現代美術の表現を模索したのである。

Q 1. 具体美術は抽象表現主義やアンフォルメルの中で生まれたのですか。概念を教えてください。日本人だけのものですか。

具体美術協会は関西の芦屋を中心に吉原治良を師として結成された美術運動です。吉原は「われわれはわれわれの精神が自由であるという証を具体的に提示したい²⁾」と宣言して「人の真似をするな。なんでもいから自分の表現を見つけろ」と若者に檄を飛ばし、行為による絵画、パフォーマンス、物質による立体と、当時としては革新的な作品が作られました。その成果は具体が「Gutai」として世界のアートシーンの中で評価されています。世界的な潮流のなかで抽象表現主義やアンフォルメルと具体美術が同時多発的に生まれたと言えます。アンフォルメル側では具体はアンフォルメルの活動の一つとして捉えている思惑があったようです。アンフォルメルの作家ジョルジュ・マチューを日本に招請して交流を深めました。相互に影響はあったと思われませんが、具体は絵画にとどまらず物質による立体やパフォーマンスなど取り入れた先駆的な独自の運動と捉えられています。参加者は日本人だけです。

Q 2. ロープぶら下がり、紙破りなど見ている方はおかしくて笑ってしまいますが、何か変わったものを作るために、そういう表現をしているのか、自分がそういう表現したいのか。

吉原治良の指導のもと、競争のように独創性を切磋琢磨したと考えられます。白髪一雄のロープにぶら下がって足でストロークの痕跡を残す絵画や村上三郎の連続す

る紙破りなどを、まじめに夢中になってやれることが素晴らしいことです。表現を模索している内に到達した作品が変わった表現になると思います。他に、金山昭はリモコンカーの軌跡を絵画にしました。嶋本昭三は絵具の入った瓶を石に投げ飛び散った絵具を絵画としました。彼らは数々の実験を制作の源泉としていました。

Q 3. 田中敦子の「電気服」は感電もさることながら電球や蛍光灯は熱くはないの。

具体展の舞台でのパフォーマンスのために作った作品。色の付いた電球や蛍光灯が点滅する衣装を着用しましたが、もちろん断熱の処理も考えたと思います。当時の田中敦子の情熱は、電球を上回るほど熱かったのでしょうか。

この作品は具体を代表する作品として人気の作品です。

その時代の他の美術

藤田嗣治, バルチェス, ジョージア・オキーフ, フリーダ・カーロ, エドワード・ホッパー, 福田平八郎, 鶴岡政男, 中村宏, 山下菊治, 岡本太郎, 瑛九, 難波田龍起を紹介。

戦後に独自の活動をする良質な作家の作品を紹介した。バルチェス, オキーフ, フリーダ・カーロ, ホッパーは静謐な具象絵画で人気が高い。鶴岡政男, 中村宏, 山下菊治のルポルタージュ絵画は戦後の復興や混乱を表している。美術動向や美術様式は時代の空気を顕著に現しているが、その周辺で活躍する作家はいつの時代でも多く、美術に多様性があることも理解をさせる。

3. 大衆文化の夜明け①：ネオダダ, ポップアート, フォトリアリズム

3-1. 大衆文化の夜明け前

抽象表現全盛の中、大衆文化の夜明けと言われる、ネオダダ, ポップアートの前哨と言われる表現がある。今でもポピュラーな人気を誇っている作家たちである。

アレクサンダー・カルダー, ルイーズ・ネーベルソン, エスコバル・マリソール, ジョセフ・コーネルを経て。

1) 学生の感想から抜粋

意味を補完し概観するために、各作家の作品の感想や作風が分かるように、この項から学生の感想を記載した。

■モンドリアンが大好き、影響をうけた、他の作家に影響

響を与えたことが嬉しい (アレクサンダー・カルダーのモビール) ■ジョセフ・コーネルの BOXART が好き ■アレクサンダー・カルダーの針金のドローイング, 空き缶の鳥, モビール, 好き, 見えないものを映し出して素敵, ジュエリー素敵, 楽しくなる ■ルイーズ・ネーベルソンのジャンクアート好き ■エスコバル・マリソールの木彫作品のセルフポートレート, パーティーや天皇など, コーラを飲む「LOVE」, 好き ■ジャンクアート好き, 興味ある, ガラクタの美を再発見した。

2) 学生の質問・疑問と教員のコメント

大衆文化の夜明け前の作家や作品は、カルダーの針金によるユニークな作品やコーネルの BooxArt は特に有名。

学生は、ジャンクと呼ばれている廃品を集めた作品や集積, 集合のアッサンプラージュ作品に強い興味を示す。

Q 1. カルダーのサーカスの作品はどのくらいの大きさですか。2時間上演とは何をするのでですか。

カルダーのサーカスはニューヨークのホイットニー美術館に収蔵されています。239.4×239.4 cm と割と大きなものです。サーカスで行われる全ての演目が盛り込まれているのが作品群の特徴です。パリに渡ったカルダーは、「サーカス」の針金彫刻を巧みに操り、本物のサーカスのように空中ブランコをさせたり、擬音付きの即興のパフォーマンスでショーを行いました。前衛芸術家をはじめ市民に熱狂的に支持されパリの人気者だったそうです。カルダーは2時間の上演で入場料を稼いでいました。ジャン・コクトー, ミロ, アルプ, デュシャン, モンドリアンなど多くの前衛芸術家と知り合ったのも「サーカス」の作品が取り持ったのでした。映像は、ニューヨークのホイットニー美術館やグッゲンハイム美術館などで入手出来るようです。PAL 方式なので、日本では NTSC への「変換再生」が必要かと思います。2004年、札幌芸術の森美術館の「作家からの贈りもの」展では、カルダーのサーカス映像が上映されていました。

Q 2. カルダーのジュエリーは販売してないと言いましたが、モビールは販売してるようでした。

カルダーのジュエリーは、一つ一つ手作りによって生みだされ、家族や知人のために作りました。線状の金属をたたいて平たくして造形した物が多く、手の痕跡を残した親しみのあるジュエリーは、どんな輝かしいダイヤよりありがたいものだったに違いありません。自分の心が入らないコピーしたものを販売するは、愛しいものを失うようで嫌だったのではないかと思います。モビー

ルのレプリカは販売しているようです。これも似て非なるもので、工業的にキットとして作られています。本物のモビールは手の痕跡が残る味わい深いものなのです。ジュエリーとモビールは表現方法は違えど根本は同じといえるでしょう。

Q 3. マルセル・デュシャンは多方面に影響を与えていて本当にすごい、彼を超えたアーティストはいますか。

カルダールの「モビール」の命名はマルセル・デュシャンです。モビールは風で動く彫刻なのでキネティックアートとも呼ばれています。デュシャンのレディ・メイド「自転車の車輪」はキネティックアートの第1号なのです。マルセル・デュシャンなしには現代美術は語れないほど大きな存在と言えます。特にネオダダやコンセプチュアルアート、シミュレーションアートなどに大きな影響を与えています。概念によって、時代をメビウスの輪のようにひねりを入れて変革させるような作家は何世紀に一人と言えるでしょう。日本では桃山時代に総合芸術としての茶の湯の規範を確立した千利休に同じような例を見るのみです。

Q 4. エスコバル・マリソールの木彫作品の大きさは？

等身大の作品がほとんどです。あらゆる芸術手法（絵画、写真、コラージュ、アッサンブラージュ、石膏直取り、木彫など）を彫刻に取り入れ、虚と実や粗と密など柔軟で統制の取れた彼女の作品世界は、無二のオリジナリティを感じさせてくれます。女性らしい感性で社会の中で立ち振る舞う人々や著名人の肖像などを冷ややかに社会批評を織り交ぜて軽快に見せてくれます。

Q 5. 素敵な廃材が手に入るところを紹介してください？

ルイズ・ネーベルソンはニューヨークの大きなゴミ箱を毎日のようにあさっていたそうです。立体イラストでお馴染みの日比野克彦さんは芸大生協の裏にあるゴミ箱から段ボールを拾ってきて作品を作っていました。本校なら木工室、金工室、セラミック工房の廃材がお勧めです。暗室や版画工房では、失敗した無価値な写真や版画に思わぬ拾い物があります。私が以前、廃品による巨大なインスタレーションの作品を作るときには、資源再生の清掃工場で入手したことがあります。病院や理学系の実験機器や器具などの収集は、医学的な安全性の見地からお勧めできません。危険です。

3-2. ネオダダ 1950年代中頃～

新しいダダの意味。ダダの作家達はオブジェを否定的

に使用したが、ネオダダの作家達は絵具や素材と同じ感覚で肯定的に使用した。抽象表現主義からポップアートへの橋渡的存在と言える。ポップアートの中にくくられることもある。廃品や廃物を使用するジャンクアートと言えるコンパイン絵画のロバート・ラウシェンバーグや国旗や標的などの記号を絵画にしたジャスパー・ジョーンズがネオダダの顔と言える。ジョン・ケージは彼らの師でありチャンスオペレーションなどで思想的影響を与えた精神的な支柱と言える。

ロバート・ラウシェンバーグ、ジャスパー・ジョーンズ、ジョン・ケージの作品を紹介。

1) 学生の感想から抜粋

ポップアートの橋渡しとして特に重要な作家、ジョーンズとラウシェンバーグ。ジョン・ケージは環境音楽や実験音楽の創始者。アートとの関わりも深い。

■ネオダダ好き、ユーモアがある■ジャスパー・ジョーンズの3段重ねの国旗、アメリカの地図、感動した■ロバート・ラウシェンバーグのコラージュ好き、面白い■ジョン・ケージの4分33秒やってみたい、0分0秒もいい、音楽でのチャンスオペレーションの考えがよい。

2) 学生の質問・疑問と教員のコメント

日常にあるモノをコンパインするラウシェンバーグのベットカバーの作品について学生の質問・疑問と筆者の答えで意味を補完する。

Q 1. ロバート・ラウシェンバーグのベットは本当に絵を描きたくてベットカバーに描いたのか、表現したくて描いたのか、分からなかったです。

ラウシェンバーグは自らの絵画や立体作品をコンパイン（立体や平面を寄せ集めて関連性を持つこと）と名付けました。夜遅くまで制作に没頭して、気がついたら次に描くキャンバスが無かったのでマットレスとベットカバーに絵を描いたそうです。その行為が私生活に密着したもろもろな物質がコンパイン出来ることを発見したといえるでしょう。実際には抽象表現主義のなごりと言える痕跡で、既存のオブジェなどに絵具を塗りつけた汚しと言えるものを行いました。それは、新品のオブジェ（ここではベットカバーとマットレス）であっても絵具を塗るマーキング行為によって、本来の使用目的とは別のジャンクとしての絵画的要素となり、絵画の中で同質化に成功したと言えるでしょう。彼は描いたと言うより表現を発見したと言えるでしょう。

3-3. ポップアート 1950年代末頃～

大衆文化の夜明けと言われるポップアートはアメリカとイギリスのブリティッシュポップがある。フランスのヌーボレアリズムとも関係が深い。ヌーボレアリズムはポップアートよりネオダダに近い存在と言える。アメリカのポップアートより5年ほどブリティッシュポップの活動が早かった。第二次世界大戦で戦火の痛手を受けたヨーロッパと違い、アメリカは近代産業の発展で大量生産、大量消費による商品が溢れ、マスメディアの発達によりテレビ、雑誌、マンガ、広告が日常に氾濫した。それを風景として見るのは当然といえる。ポップカルチャーとして芸術が大衆化を果たした役割は大きい。詳細は下記の教員コメントを参照。

ロイ・リキテンシュタイン、ジェームズ・ローゼンクイスト、トム・ウッセルマン、クレス・オルテンバーク、ジム・ダイン、ラリー・リバーズ、ミンモ・ロッテラ、レーモンド・ヘインズ、フォステル、エド・ルシャー、ロバート・インディアナ、アーネスト・トロヴァ、ジョージ・シーガル、エドワード・キーンホルツ、アンディ・ウォーホル、ジョン・チェンバレン、ウェスターマン、ルーカス・サマラスの作品を紹介。

1) 学生の感想から抜粋

親しみやすいポップアートの作家を理解する手がかりとなるであろう。40年過ぎた現在でも新鮮な感覚が魅力なのである。身近な日常に制作のイメージはある。

■ポップアートは親しみやすい、好き、ユーモアがある、飽きない、色使いがくっきりして好き■ロイ・リキテンシュタインのマンガの絵画が好き、女性の口もとなどのクローズアップしている絵画は魅力的■アプロプリエーション(流用)は新しい方法として面白い■ジェームズ・ローゼンクイストの成長計画こわい、看板の様に大きく描くことで、部分が抽象となることを発見したところが凄い■クレス・オルテンバークのソフトスカルプチャー、ハンバーガー&ポテト、レーズンパン、洗濯バサミ、スプーンとチェリーの噴水、マッチの燃えさし、ロンドンの膝小僧、ユニーク、好き■アーネスト・トロヴァの車の人間面白い■ラリー・リバーズのマネの娼婦の白人と黒人を逆にした作品好き■ロバート・インディアナのLOVE好き■アンディ・ウォーホル、Befor and After、色を塗る作品、キャンベルスープ、マリリン、凄い、好き、おしゃれ、綺麗、見方が変わった■エドワード・キーンホルツ、テレビの顔の作品が好き。

2) 学生の質問・疑問と教員のコメント

芸術の大衆化によって、アートが分かりやすく馴染みの作品が多かったようである。質問も多岐にわたり大量生産、大量消費にまつわる商品や映画スター、イメージの流用、ポップアートのスター、アンディ・ウォーホルの興味や作風など、学生の質問・疑問と筆者の答えで意味を補完し概観する。この項目の多いのは、ポップカルチャーから影響を受けた、広告、CMなどが私達の身近なものとして受け入れられているからであろう。

Q1. ポップアートの作品はただ連続的に並べればよいのか。大量生産、大量消費社会を賛美するための手段や表現なのか。

大量生産、大量消費によって出現した物質やメディアを一つの風景として描いたのです。スーパーの商品棚のように連続した物を表現することもあり得るでしょう。ウォーホルのキャンベルスープやブリロの洗剤の箱などは、アメリカの人にとって、ありふれて取り立てて見向きもしない存在でしょう。日本で言えば、トマトジュスやお茶のペットボトル程度のもので、その程度の物をウォーホルが作品にしたので、今まで誰が考えもしなかった表現方法の作品が出てきたので、人々は新鮮な衝撃を受けたと言うことです。どうやら日本人がコカコーラかっこいいとかキャンベルスープかっこいいと思うのとはニアンスが違うようです。

Q2. コカコーラってアート界(欧米人)にとってどんな存在なのでしょう。日本だと何に置き換わるでしょう。

上記を参照。但しコカコーラやマクドナルドはアメリカ国力の世界戦略そのものなのです。もはや世界中にコークの無い所を探す方が難しいと思います。日本だと、馴染みの栄養ドリンク。世界戦略の見地では、お寿司(鮭ではない)や豆腐。日本料理もブームだそうです。

Q3. アプロプリエーション(流用)を使った作品は、著作権で問題にならなかったのでしょうか。

著作権については専門でないので以下を引用します。「他者の作品をそのまま複製し、自らの作品とすること。複製された作品のコンテクスト(文脈)から現前するイメージを借用し、別のコンテクストの中に借用されたイメージを組み合わせることによって新しい作品を作ろうとする企てである。この現前という用語自体は、制作の単なる技術あるいはするイメージとは、一般に流布している既製品、広告、メディア等あるいは著名な(誰でも知っているような)芸術作品に付随するイメージ(あるいはその「像」そのもの)である。これらは時にはそ

のイメージを忠実に再現し、借用者自身の作品として提示される場合もある。このようにその作品がオリジナルの忠実なコピーであっても、年代や制作者を偽り鑑賞者や収集家を欺くことを目的としない限り、贋作とは区別される。一見センセーショナルなこの手法であるが、こうした借用の根本的な考え方は、20世紀初頭に端を発する手法の流れを汲んでいる、二次元的な「ファウンド・オブジェ」と等価物であるとする見方もある。この手法もオリジナル重視に対する挑発的な行為の一種であるが、アプロプリエーション方法ともいえる。」³⁾
(真贋のはざま・近藤由紀著より引用)

流用がアートの世界では創造活動として認められています。パロディも許されます。しかしながら、先般話題になった、日本人画家が知人のイタリア人画家の作品に酷似した絵を複数出品したと言う事件は、オリジナルをそっくり真似た盗作・贋作として創造者としては許されない行為なのです。

Q 4. ポップアートは大衆にとってポピュラーになったのですか？

ウォーホルのシルクの版画などは割と安いので飛ぶように売れたそうです。江戸時代の浮世絵が大衆と密接になったのと似ています。欧米の美術の大衆化が、日本にやっと追いついたのです。絵画の主題としても、神や貴族などを描く時代から変遷して、日常のモノやコトがモチーフとなった訳ですから、大衆にとっても芸術が手の届くところにあるポピュラーなものになったのではないのでしょうか。

Q 5. ポップアートの作品になぜモンローがひんぱんにでてくるのか。モンローはなぜあんなにセクシー。アメリカではマリリン・モンロー、フランス・パリではキキとセックスシンボルがいますが、日本にはセックスシンボルと言える人がいますか。

モンローは出生証明も不明なような境遇で、とても不遇な少女期であったと言えます。女優として時代の寵児となってからは、虚像としてのセックスシンボルを演じたのでしょう。精神的な葛藤が彼女を苦しめたのは言うまでもない。フェロモンを全開にしながらも、貞淑さを併せ持つモンローに世の男性は悩殺されたことでしょう。死後も悲劇のヒロインとして神話が一人歩きしました。アーティストも面白い素材としてモンローを使っていたと思います。パリのキキはもう少し古い話ですが、モデル、歌手として前衛芸術家たちのアイドルだったそうです。日本には60年代それを許す土壌がなく、アンダーグ

ランドの中で、ごく一部の人々に愛された女優さんがいたそうです。横尾忠則さんは浅丘ルリ子さんをヌードにした作品を作っています。もちろん彼女はヌードになるようなキャラクターではないので、想像上のものです。

Q 6. アンディ・ウォーホルは自分の痕跡を残さない作品を作りましたが、メッセージはなかったのですか。

ウォーホルは、「私の作品は表面だけである、裏には何も無い」と言ったそうです。痕跡さえ入れない作品の徹底した無化が、時代を強烈に映し込む鏡の役割として彼は認識していたのです。これが他のポップアーティストと違うところです。痕跡や手技は抽象表現主義やそれ以前の美術の名残を感じさせますが、それを無化させたウォーホルの作品は画期的な出来事なのです。ポップアートの中でも図抜けた存在と言えるでしょう。

Q 7. アンディ・ウォーホルの映画も知りたいです。

「エンパイヤー」「イート」「眠り」「キス」を定点から長時間の撮影した映画など、コンセプチュアルアートの実験映画を制作しました。さしたる変化もない映画に長時間付き合うのも大変かと思います。

Q 8. ポップアートの絵画作品の部分から抽象的要素を引き出した。のところを詳しく教えてください。部分を切り取ると抽象絵画になるとのことでしたが、そういうことなら世の中にある、どの具体的な絵画にも同じことが言えるのでしょうか。

これはすべての絵画に当てはまる訳ではありません。ロイ・リキテンシュタイン、ジェームズ・ローゼンクイストに言えることです。特にローゼンクイストのモチーフをランダムに構成した具象絵画がとてつもなく巨大なため、近くで見ると具象であったものが抽象表現的に見えると言うことです。彼は看板描きのアルバイトをしているときにこのこと発見して作品に取り入れているそうです。ロイ・リキテンシュタインの絵画はコミックの一場面をモンドリアンのような色調で、太い線と色面とドットのみで構成です。これは具体的な形を描いてあるので意識しづらいのですが、モンドリアンのグリッドと色面の絵画と同じように捉えることができます。2人ともそれを意識して作品の構成要素として制作しているところが、他の人の描いた作品とは違う所といえるでしょう。そう見えるのと、そう描いたのでは相当な違いがあるのです。

Q 9. ポップアートが「ウイット」に富んでいるとは。

「ウイット」(Wit)は機知、機転、とんち、などと訳さ

れます。例) クレス・オルテンバーグの洗濯バサミは「ウイット」に富んでいて、こども心呼び戻される。作品の背景には、近年蔓延してきたスノブ(Snob: えせ紳士)の社会的規範に一撃を食らわせ、笑い飛ばしてやろうと言うアメリカ人のユーモア精神が見える。また公共空間に洗濯バサミを設置し受入れる市民や行政も「ウイット」に富んだ人々と言えらるだろう…など。

Q10. ポップアートはシュルレアリスムや抽象表現主義より解釈の幅がせまいので気楽に鑑賞できる。今までの授業でよくわからないものを見続けていたせいか、分かり易いということが逆につまらないと感じてしまう。

これまでのアートの動向が刺激となって脳内の許容量が増大したと言うことです。同じ人間として、先人の創意工夫から学ぶことは多いと思います。人は剛が続くと柔を求め、時代は必ず揺り戻しがあるのです。ポップアートの反動でミニマルやコンセプチャルへと変動します。

Q11. 洗濯バサミのような場違いであるが、ちゃんと意味のある面白いモニュメントはあまり日本では見られないと思った。日本にはあのようなモニュメントがありますか。

「ウイット」(Wit)の欄でも書きましたが、日本のなかであのようにあつけらかんとしたモニュメントは存在しません。日本人の特性でしょうか、公共空間に設置されるものは、まじめな芸術したものが行政をはじめ市民も求めているようです。それが愛されているかという別話で、作品の周りに自転車だらけとか、手入れもされず悲しい状況なものも日本なのです。欧米は凱旋門や戦勝記念碑など公共のモニュメントの意味を十分に理解されている歴史があります。日本では自然石に記念の歌碑などを設置し、自然に侘びた風情の趣きを感じていた日本との違いでしょう。

Q12. ウェスターマンの木箱はマグリットの棺桶の作品と関連性はあるのでしょうか？

ウェスターマンの作品はユーモアに溢れていますね。「く」の字型の木箱は小さな棺桶です。取っ手のつまみが十字架でした。良く観察しています。マグリットの棺桶の作品との関連性は分かりませんが、どちらの作家もだましのユーモアが好きですので、ウェスターマンは間接的に影響を受けているかもしれません。

Q13. ROCK: 音楽とビジュアルの融合したアートだと思う。

実はアートシーンより音楽の方が時代の先取りは早い

と思います。昔、イギリスのロックシーンのミュージシャンはほとんどが、美術学校出身と言われていました。アートと音楽の創造の根っ子は近いと思われます。ROCKと密接な関係をするのが、ヒッピー文化でLSD(ドラッグ)によって極彩色の幻覚をもとに70年代に一世を風靡したのがサイケデリック文化です。終息するのも早かったです。

3-4. フォトリアリズム (スーパーリアリズム)

1960 年末頃～

人物像や風景などを超細密に写真のように描く絵画や、人体から直接型取りをした人物像などをスーパーリアリズムやフォトリアリズムと言う。抜群のテクニックを誇り、絵画や彫刻に一つのあるべき姿勢を示した。

チャック・クロース、リチャード・エステス、ジョン・デ・アンドレア、ドウェイ・ハンソン、ドン・エディ、マルコム・モーリーの作品を紹介。

1) 学生の感想から抜粋

絵画が絵画たらしめる超写実。徹底して推し薦める技量に感心は高い。写真技術が高まって、それを超えようとする作家が出てくるのも必然性のあることである。

■フォトリアリズム絵画凄い、圧倒される ■フォトリアリズムの彫刻好き ■チャック・クロースは凄い ■リチャード・エステスの絵は写真以上である。

2) 学生の質問・疑問と教員のコメント

超絶技巧に息を呑まれた学生が多い。その意味に懐疑的な学生の声も見逃せない。写真で良いのでは、の声もうなずけるが、制作の魂はそれを凌駕する。

Q1. フォトリアリズムの作品は写真に見間違ふ。制作時間は。大きさは。何に描いているの。絵具は。どうやって描くの。描く意味がないと思う。写真でいいような気がする。ポップアートからの流れが分かりません。

チャック・クロースのスーパーリアリズムの肖像画は高さ274.3cmのキャンバスに描かれています。一枚の絵を完成させるのに数ヶ月を掛けるそうです。素材はアクリル絵具を使用しエアブラシで描きます。スライドをプロジェクターでキャンバスに投影して輪郭をなぞります。そこから一つ一つ精密に色で塗り込めて行くのです。大変根気のいる作業かと思います。ただ、写真を元に行っているが写真を超える表現をねらって光の映り込みやピンぼけなどをより強調しています。リチャード・エステ

スのバスとショーウィンドウの絵は幅 132.1 cm とそれほど大きな絵ではありません。素材は油彩で手描きです。画面全てにピントがあつていしますので、かなり高度なテクニックと膨大な描き込みを必要とします。もちろん写真をプロジェクションして描いていますが、何枚かの写真を合成して描くようです。光の反射などを強調そして写真では捉えられない世界を作り出していると思います。写真でも良いのですが、そこに人間の思いをのせていく絵画に人生を捧げる人もいて良いのではないのでしょうか。ポップアートの流れから派生した美術と言えるでしょう。抽象全盛からポップアートになって、その後若いアーティストがフォトリアリズムを求めたと言えます。

Q 2. フォトリアリズム (スーパーリアリズム) に似た、最近話題の巨大なリアルな人間の作品が見たいです。

絵を見たように描きたい、彫刻を実物のように作りたと思うのは人間の本性なのかもしれません。ジョン・デ・アンドレア、ドウェイ・ハンソンの蠟人形みたいな作品を先例に、最近の動向としてリアルな彫刻が出てきました。最近話題の巨大なリアルな人間の作品はロン・ミュエクの巨大少年の作品です。

3) 美術の見方考え方についての質問

学生の感想や質問をまとめた「上遠野通信」は、学生に他者との考え方やモノの見方の違いを意識させるようである。人と比べる必要はなく、学生それぞれに個性がある。個性を尊重し伸長させる手立てとしたい。

Q 1. なんだか皆の質問集を読む度に考えさせられてしまいます。私は、自分の中にあるものだけで、物を作ってきましたが、もっと周りの物を見るだけでなく、そこから無理矢理にでも疑問をしばり出す姿勢が大事なんだなあ。今更ですが、こういった分野に向いていないのかなあ、と思い始めてきました。

この授業は現代美術の授業なのでデザインとは少し異なります。個々の作家には、それぞれの概念があることを理解する手だてとなって頂ければ幸いです。あるがままを認める。それは自己にも、他者にも言えることです。これからいろいろと体験のなかから自己が形成されてきますので、焦らず自分探しを楽しむ 4 年間で良いのではないのでしょうか。

その時代の他の美術

オブアート (オプティカルペインティング)

1960 年代中頃～

ポップアート後の動向、錯視効果を利用したアート。

ヴィクトル・ヴァザリリ、ブリジット・ライリーの作品を紹介。

4. 大衆文化の夜明け②: ブリティッシュポップ, ニューレアリズム, 日本のネオダダイズム・オルガナイザーズハイレッドセンター

4-1. ブリティッシュポップ (イギリス) 1950 年代中頃～

エジュアルド・パオロツツイやリチャード・ハミルトンがポップアートの先駆者と言える。ハミルトンの「いつたい何が今日の家庭をこれほどに変え、魅力的にしているのか」の小さなコラージュはポップアートの代表作。彼が教員をしている王立美術大学の教え子から優秀な作家を輩出した。デイヴィッド・ホックニーやロン・キタイ、パトリック・コールフィールドなど絵画を中心に落ち着きのある作風に特色がある。3-3. ホップアート、4-2. ニューボレアリズム (フランス) は関連。詳細は下記の教員コメント、学生の感想を参照。

フランシス・ベーコン, ルシアン・フロイトを経てリチャード・ハミルトン, ロン・キタイ, ピーター・ブレイク, デイヴィッド・ホックニー, パトリック・コールフィールド, アレン・ジョーンズ, エジュアルド・パオロツツイなどの作品を紹介。

1) 学生の感想から抜粋

初めて見る作品が多く、イギリスの作家に魅了されたようである。アメリカの作品のように大衆文化の事物をあっけらかんと示すのではなく、大衆化を促進しながら、魅力のある画力を示す具象絵画や立体表現の新たな地平を開拓したと言える。

■フランシス・ベーコン, 人間の不安感を示していた■
 ルシアン・フロイト, 少女の絵の目が特に印象的■
 ブリティッシュポップのポップアートがイギリス発と聞いて驚いた、アメリカの作品よりブリティッシュポップの方が絵画的で親しみやすい、独自性や感性を感じる、アメリカの影響を受けているのが分かった。ダダやシュルレアリスムに比べて線で構成されている絵が多くシンプルで好印象、リアルに描かれている部分とコラージュのような平面的な部分が混在して面白い、アニメのように絵がかれたアメリカのポップアートより魅力的、芸術作品は地

域の特性が現れていると感じた、あっさりとしたスマートな作品なのに、どれも深みがある印象、上品で紳士的な印象■リチャード・ハミルトン、代表作のコラージュより描かれた作品のほうが好き■ロン・キタイの色使いと空間が好き、オハイオギャングの絵が好き■ピーター・ブレイクの新聞の絵が好き、勲章のある絵印象深い、MASUKED ZEBRA KID 好き、デザイン的要素があって好き、ビートルズのジャケットのジョージ・ハリソンの目が描かれてなくて悲しい■デイヴィッド・ホックニーのクレヨンの絵が素敵、龍安寺の写真作品好き、フォトコラージュ難しそうだが楽しそう、デザイン的要素があって好き■パトリック・コールフィールド、白黒の婚約指輪の画面が好き、すっきりして雰囲気が綺麗、色数が少ないのに周辺に他の色が見えてくるようで素晴らしい、惹かれた、つぼの絵好き■アレン・ジョーンズの女性が家具になるのがすごい、本物の人間を使って写真で表現した方がリアルで良いのでは■エジュアルド・パオロツィ、シルクスクリーンの象が可愛い。

2) 学生の質問・疑問と教員のコメント

ポップアートと言うとアメリカの印象があるようである。その気運はイギリス発である。作品にも表現の地域特性があることを理解することは重要である。学生の質問・疑問と筆者の答えで意味を補完し概観する。

Q 1. プリティシュポップはアメリカのポップアートより認知度がかなり低い気がしました。どうしてですか？

戦後の日本はアメリカを窓口に見ていましたので、プリティシュポップよりアメリカのポップアートの方が情報量も多く馴染みがあると思います。私が学生の頃の 80 年代はイギリスのデイヴィッド・ホックニーやフランシス・ベーコン、ルシアン・フロイトも断然人気がありました。「ニュースカルプチャー」(80 年代の新しいイギリスの彫刻の動き) のトニー・クラグやバリー・フラナガンなどが台頭してイギリスの現代アートがもっと身近でした。それは世田谷美術館を中心にイギリス美術を積極的に紹介したからです。イギリスの美術の特徴は、流行と関係なく独自の道を歩む作家が多く、通の美術愛好家や作家に支持されていました。

Q 2. 国ごとに作品のニアンスが違う印象をうけます。

美術の大きな流れや様式が発生するのは、地球規模の共通する潜在意思が突き動かされているなにかがあるのでしょうか。しかし作品のニアンスは国や地域により表情がことなります。それは国民性や歴史的背景、宗教観などが反映されるからでしょう。通信手段や交通手段の発

達によってグローバル化が促進されています。しかし美術の世界では、欧米を中心に価値基準が形成されています。東洋や南米、アフリカのアーティストは、欧米の文脈にない現代の価値を創造するオリジナル性が要求されています。近年は日本のマンガやアニメ、アキバなどの文化がリスpektされています。村上隆がアートワールドで受け入れられたのには必然性があったと言えます。

Q 3. RCA 王立美術大学を教えてください。

ロンドンにある王立の大学院大学で、著名な作家を輩出している。近年はビジュアルデザインに力を入れているようです。日本人の留学も多い。ロンドンにはセントマーチン、チェルシー、ゴールドスミスなどの美術大学が有名です。

Q 4. 作品のタイトルには意味不明なものが多いが、これは作者が訳分からないタイトルをつけているのか、それとも作者にだけ理解されることがあるのか。

難解なタイトルを付ける代表はマルセル・デュシャンと言えるでしょう。タイトルにも謎掛けを人生にも謎を掛ける作家だからです。リチャード・ハミルトンはデュシャンを崇拜して、イギリス版大ガラスのレプリカを作った人です。「いつたい何が今日の家庭をこれほどに変え、魅力的にしているのか」はデュシャンの影響でしょう。欧米の作家には、無題 (untitled) と表記するのがかなり見かけます。または「リングと赤いバラとテーブル」など即物的なタイトルを付ける人も多いです。日本人の方が詩的で修辭的なタイトルが多いです。

4-2. ニューボレアリスム (フランス) 1950 年代末頃～

アメリカのネオダダと共通点が多い。廃物やファウンドオブジェ(見いだされたオブジェ)。フランス版ポップアートとも言える。独自の顔料を開発してパフォーマンスとの関連で作品を作ったイブ・クラインやジャンクアートによるアッサンブラージュで社会を表出する作品が多い。3-3. ホップアート、4-1. プリティシュポップは関連。詳細は下記の教員コメント、学生の感想を参照。

アルマン、セザール、ジャン・ティンゲリー、ニキ・ド・サン・ファル、イブ・クラインなどの作品を紹介。

1) 学生の感想から抜粋

ジャンクを使った集積や集合の作品が多い。学生は日常の何気ない品々がアートに変身することに、強い関心を示すことが伺える。

■ヌーボレアリズムのジャンクアートは潔くって好き■アルマンの赤ちゃんの人形を一杯を詰めた作品恐い、グロテスクで奇妙、ゴミ箱が作品になるのがすごい、真空管の作品印象深い■セザールの大きな親指の作品見てみたい■ジャン・ティンゲリー、すごいジャンクアート■ニキ・ド・サン・ファル、女性像のナナちゃんがよかった、カラフル好き、カラフル嫌い、イタリアの彫刻公園クロットの庭行ってみたい■イブ・クライン、「人体測定」の女拓にビックリ、衝撃、抵抗感あるけど好き、インターナショナル・クライン・ブルーすごくいい色、見てみたい（画材店で販売されてます）。

2) 学生の質問・疑問と教員のコメント

フランス版ポップアートであるがアメリカやイギリスのポップアートと性格が異なる。ネオダダのように廃品を使う作家が多い。イブ・クラインの衝撃のパフォーマンスに驚きと関心を惹いたようである。日本では馴染みの作家が多いことが分かる。

Q 1. イブ・クラインの裸の女性を使ったパフォーマンスは、芸術とセクハラ境界がむずかしい。

例えば、日本には芸術系の学校にヌードデッサンがあります。ヌードの女性の絵がデパートの美術売場に陳列してあります。街角には女性の裸の彫刻があります。美術とはそういうものだとなんの疑問もなく批判もなく容認されています。ところが現代アートにおいては表現の過激さゆえに、作家が意図しないところで、受け手が生身の性を極度にあぶり出してしまうようなことがあります。イブ・クラインが行った裸の女性を使った女拓パフォーマンスは日本の状況と何が違って、なにが同じなのでしょう？ 芸術表現とセクハラ、いわゆる「性的嫌がらせ」とは、その動機に根本的な違いがあります。この授業では、造形を通して人間像を語る場合、性や人体を外して本質に迫ることができないと思っております。ちなみに、アメリカでは街角に女性の裸の彫刻があったらポルノグラフィーとの認識だそうです。このように地域や受け手の人それぞれに考えが違うことを認めながら授業を進めてまいります。

Q 2. ヌーボレアリズムの作品は日本にあるものが沢山あったが、日本にゆかりがあるのでしょか。

アルマン、セザール、ジャン・ティンゲリー、ニキ・ド・サン・ファル、イブ・クラインは日本でも展覧会が多く開催されています。ジャン・ティンゲリーはセゾン現代美術館、箱根彫刻の森美術館などにあります。セザールは箱根彫刻の森美術館や清春白樺美術館などにありま

す。ニキド・サン・ファルは熱心なコレクターがいて、ニキ・ド・サンファル専門のニキ美術館が那須高原にあります。熱烈な支持者がいるということです。ちなみにイブ・クラインは日本に柔道の修行にきています。講道館四段でヨーロッパに柔道を広めました。

4-3. ネオダダイズム・オルガナイザーズ（日本） 1960年代初期頃～

日本の反芸術運動。ネオダダオルグとも言う。吉村益信を中心に「読売アンデパンダン」などで活躍。奇異な格好をして銀座を練り歩いたパフォーマンスや篠原有司男のボクシングペインティングは有名。活動は短期間で終止符を打った。

吉村益信、赤瀬川原平、篠原有司男、荒川修作、風倉匠などの作品紹介。

1) 学生の感想から抜粋

日本のアバンギャルドの活動を知らない学生には衝撃であったようである。彼らの突破力があって現代美術が醸成されているのである。興味の一端が伺い知れる。

■日本の60年代の現代美術いろいろあって面白かった、もっと紹介してほしい、こんなに面白い人たちがいたのだと興味深かった、おかしなことをことをまじめに淡々とすることに共感■吉村益信の剥製のブタはリアルなのに美味しそうで面白い、衝撃をうけた、大ガラスのからすの作品はデュシャンに引っ掛けて笑える■篠原有司男、ボール紙のバイクの作品すごい。モヒカン強烈、ボクシングペインティング面白い。

4-4. ハイレッドセンター（日本）1960年代初期頃～

高松・赤瀬川・中西の頭文字をとってハイレッドセンター。芸術と日常を攪拌するアートを実践した。彼らの活動は日本の現代美術史において、具体につぐエポックと言えるであろう。創造性や発想のありようは群を抜く。その後、各自は各々の道を歩むが、現代美術の最前線を歩む。詳細は下記の教員コメント、学生の感想を参照。

高松次郎、赤瀬川原平、中西夏之の作品を紹介。

1) 学生の感想から抜粋

芸術が芸術として存在するのではなく、芸術と日常を攪拌することによって見えなかったものが見えてくる。彼らは美術概念の拡張に大いに貢献した。絵を描く、彫刻を作るのみが芸術でないことが理解できたようである。

■ハイレッドセンターのシェルターの計画面白い、奇抜な作品ばかり、山手線事件：自分が乗り合わせたらびっくり、清掃や物を落とす行為が作品になってしまう芸術の幅の広さを感じた。パフォーマンスはぶっ飛んで面白かったが、本人たちが一番楽しかったのでは■高松次郎、影の絵好き、本物のよう■赤瀬川原平、お札の作品面白い、下着の作品不思議な存在感があった、全てが面白い、超芸術トマソン：四谷階段好き微笑ましい、越境する影面白くて好き、凹なのに凸素敵、風のレコード好き、好き、面白い■中西夏之、洗濯バサミ痛そう、すごい、芸術と日常を攪拌するのがかっこいい。

その時代の他の美術

工藤哲巳、三木富雄、山口勝弘、野田哲也、四谷シモン、須賀啓、小島信雄、鬚嘔(A.Y-O)、岡田博、池田満寿夫、菊畑茂久馬、秋山祐徳太子、手塚治虫、草間彌生、横尾忠則、亀倉雄作の作品を紹介。

2) 学生の感想から抜粋

国際的にも著名な女性作家、草間彌生の印象が強いようである。横尾忠則、亀倉雄作のデザイン、ポスター表現は今でもインパクトを保っていることが分かる。

■草間彌生、自分の精神に直接問いかけているように思えた、嫌いなものを克服するために制作するのが新鮮。かぼちゃと鏡の部屋が宇宙より広いのが印象的で不思議、綺麗、軍手を素材としたソフトスカルプチャーが興味ある、増殖させる覇気がすごい■横尾忠則、構図や色彩のセンスが良い、今でも新鮮、デザインとアートの中間もありえることを認識■亀倉雄作、東京オリンピックのポスター良かった、普遍的なのですね。

3) 学生の質問・疑問と教員のコメント

日本のネオダダイズム・オルガナイザーズ、ハイレッドセンター、その時代の他の美術について総括。

学生は、1960年代の作品解説から時代背景について興味を持ったようである。急速に社会が経済成長する高揚感は今では見られないものである。現代美術が「社会の鏡」たる所以である。作品においても世界観を広げてくれるものが多く興味的一端が伺い知れる。学生の質問・疑問と筆者の答えで意味を補完し概観する。

Q 1. 1960年代は現在より社会に対する関心が強い印象を受けました。どんな世の中だったのですか。

60年代はテクノロジーの黎明期と言えるでしょう。1961年ソビエト連邦のガガーリンが人類として初めて

宇宙飛行を成し遂げ「地球は青かった」とコメントしました。それから8年後の、1969年にアメリカはアポロ11号で月面に着陸したのです。テレビに釘付けになって生放送をみました。ベトナム戦争(1960年～75年)も連日放映されていました。日米安保闘争での学生運動も過激でした。東大の安田講堂が占拠されたのは1969年でした。60年代はキューバ危機、ケネディ大統領暗殺、東海道新幹線開通、東京オリンピック開催、マルコムX暗殺、中国文化大革命、ミニスカートが流行る、キング牧師暗殺、ワルシャワ条約機構軍がチェコスロヴァキアに侵攻、高度経済成長、公害、ビートルズなど激動の時代とも言えるでしょう。国家に忠誠な国民が個人の権利を主張する国民へと変化した時代でもあります。

Q 2. 昔はとても激しいパフォーマンスアートをやっていたようですが、今やったら捕まりそうなのですが、やっている人はいるのでしょうか。

主張する方法や表現は変遷していますが、激しいパフォーマンスアートをやっている作家は相変わらずおります。法律に違反するような行為は今も昔もお縄なことに変わりません。

Q 3. 赤瀬川原平の千円札裁判で捕まってしまうのはやり過ぎな感じがします。法廷写真がありました。裁判所内は写真を撮れるのでしょうか。今でもお金を題材にした作品は危ないのですか。

赤瀬川原平さんは紙幣偽造ではなく模造罪です。国の定めたお札と紛らわしい物を作った罪です。弁護用の証拠品として作品が法廷内に陳列され弁論や審議を含め、一種のアートパフォーマンスの様相を呈していたそうです。結局、赤瀬川さんは懲役3ヶ月執行猶予1年の有罪判決を受けました。1年間お利口さんにしてると刑が失効するのです。写真は裁判官側から撮影されているので、証拠品として押収されていた作品ともども返還されたものと思われます。他にお金を作品にしている作家はいます。アメリカの作家で100ドル札をロットリングで精密にイラスト描写してお店で買い物をするそうです。これはニセ札ではなく、絵画として100ドル以上の価値を商店主に買い取ってもらって売買は成立して買い物ができる方法です。こんな方法でも生きて行けるアメリカの寛容さが好きです。日本では最近、会田誠が屏風絵の下地に一万円札を白黒コピーして金箔がわりに貼って絵を描いた作品があります。いわゆる「金」として意味の還元です。ちなみに、お札をコピーすると、コピー機が検知してメーカーは警察への通報義務があります。

Q 4. 赤瀬川原平は芸術家ですか作家ですか。どうしたら原平さんみたいになれるのでしょうか。

赤瀬川原平さんはアーティストのほかに芥川賞作家の尾辻克彦でもあります。現在はこの作家名は使用せず赤瀬川原平で出筆活動を行っています。「老人力」は記憶に新しい。老人力の命名は建築家で建築史家、東大教授の藤森照信さんです。どうしたら原平さんみたいになれるのでしょうか。それは、まなざしの柔らかさと最良の脳内リゾート開発の達人だからでしょう。物事に几帳面であるが、角がない。そして本人談。「優柔不断の人」だそうです。眉間にしわがない。「人間てだいたいこんなものだとわかってくると、悩みというの干からびてきて、爪の先でべりっと剥がれたりする」と言っています。

Q 5. 60年代の作品は画期的でした。現在の作品はあまり画期的とは思えません。

生まれ落ちる時代によって社会的背景や思想は変遷します。これは運命と言えるもので、作家もしくは全ての人々が、あらがうことができません。60年代は第二次世界大戦も終わり、アメリカを頂点に経済の復興が目覚ましく、大量生産が可能となりTVなどメディアの飛躍的な発達がありました。人類が月面に到達したのは69年でした。今日より明日が輝かしい、そのような時代にはある種の高揚感が発生します。ポップアートのあっけらかんとした脳天気な作品は時代のリトマス試験紙と言えるでしょう。その反面、ベトナム戦争への参戦やキューバ危機、ケネディ大統領の暗殺、公民権運動（黒人差別に対する運動）とキング牧師の暗殺。世界中で発生した学生運動。武装によって世直しを謳った過激派なども登場しました。個人の権利や自意識の目覚めも顕著になった時代です。それらを背景にシリアスなコンセプチュアルアートやミニマルアートが誕生したとも言えるでしょう。アースワークは当時の若者の厭世観や極度に商業化されたアートに対する意義申し立ての意味もあります。

さて、現代を考えてみましょう。携帯電話やパソコンなどの伝達手段が、よりパーソナルな次元に降りてきてバーチャル化する一方です。アートより事実のほうが早く、そして先鋭的です。瞬時に世界の情報を入手できる時代は、他者と照らし合わせる事が可能となり、せっかく先鋭と思って創造した作品が、他者の後塵を排していたと言う話もあり得る時代です。ですから大きな様式のムーブメントも発生しにくい時代です。そのうえ思いもしない画期的な方法が社会の中に流通しているのです。アーティストの個は埋没しつつ社会を緩やかにあぶりだしているのが現状といえます。

Q 6. 草間彌生のように自分の病気を克服して行くためや病気（幻覚）などを元にして制作するアーティストは他にいますか？

オブセッション (Obsession 妄想, 脅迫観念) アートと言います。草間彌生さん以外はヌーボレアリスムの作家、ニキ・ド・サン・ファルの若い時の作品に、人体を布や石膏で作る散弾銃で撃ち抜く作品で克服した例があります。これと似た作品にアウトサイダーアートがあります。精神的疾患を持ちながら、美術教育を受けずにオブセッションなアートを作っている人はたくさんいます。

Q 7. 横尾忠則のポスターは浮世絵の色合いで新鮮でした。

写真製版を使用したシルクスクリーン技法です。プロのシルクスクリーン刷り師と共同で制作します。色数も自由。浮世絵風にする事も、クレヨン風、油絵風にする事もできます。ポスターなどのグラフィック作品は世界の横尾として評価されています。ニューヨーク近代美術館には多数のポスター作品が収蔵されています。最近、横尾忠則はグラフィックや商業作品の仕事は一切しないことを宣言してアート作品に邁進するそうです。

以上で、「ダダイズムからポップアートと1960年代の美術まで」の美術様式を、学生の講義感想や質問を交え現代芸術の歴史を概観し表現の根幹を明らかにした。

IV. 結語

本研究は、「ダダイズムからポップアートと1960年代の美術まで」の約50年間の現代美術の様式を解説したものである。

美術概念の大きな変革と言える、ダダから始まって、シュルレアリスム、第2次世界大戦中から始まった抽象表現主義、戦後のアンフォルメル、具体美術、ネオダダ、ポップアート、プリティッシュポップ、ヌーボレアリスム、フォトリアリズム、オプアートネオダダ・オルガナイザーズ、ハイレッドセンターなど、それに各美術様式と時代背景を同じにする代表的な、その他の美術を併せながらアメリカ、ヨーロッパと日本を横断的に網羅した。

特に、作品の制作意図を示す「現代芸術の基本理念、表現の時代背景、表現の地域特性、作品概念、表現論」の観点から概観した。各項目ごとに現代美術が理解できるように、学生の質問や感想に答える形で考察を交えながら作品事例をあげて、詳細に表現の根幹を明らかにした。

学生の現代美術に対する戸惑いや興味は、徐々に理解

から親しみへと変化し、それに応じて質問や感想の内容も変化するのも教育者として興味深い。デザインや芸術文化を創造するためには、先人の歴史を学ぶと同時に芸術文化も学ばなければならない。創造の源泉として、本研究が考え方の大きなヒントになるであろう。

熱心に取り組んでくれた学生に敬意を表したい。

引用文献

- 1) ロバート・アトキンス：現代美術のキーワード・東京：美術出版社，p.148，1993
- 2) 吉原治良「具体美術宣言」1956年10月（『芸術新潮』1956年12月号掲載）
- 3) 近藤由紀「真贋のはざま」アプロプリエーションから
http://www.um.utokyo.ac.jp/publish_db/2001Hazama/07/7200.html

参考文献

- ・ロバート・アトキンス：現代美術のキーワード，東京：美術出版社，1993

- ・美術手帖編集部：現代美術事典 アンフォルメルからニューペインティングまで，東京：美術出版社，1984
- ・美術手帖編集部：現代美術 ウォーホル以降，東京：美術出版社，1990
- ・美術手帖編集部：現代美術入門，美術出版社，1986
- ・H.W. ジャンソン：美術の歴史 第4部近代世界，東京：美術出版社，1990
- ・H.H. アーナスン：現代美術の歴史，東京：美術出版社，1995
- ・エドワード・ルーシー＝スミス：現代美術の流れ 1945年以降の美術運動，東京：パルコ出版，1986
- ・榎木野衣：爆心地の芸術，東京：晶文社，2002
- ・中村信夫：少年アート，東京：弓立社，1986
- ・クリストファー・フィンチ：ポップアート オブジェクトイメージ，東京：パルコ出版，1979
- ・巖谷國士：ユリイカ ダダ・シュルレアリスム，東京：青土社，1981
- ・ケネス・クウツ＝スミス：ダダ，東京：パルコ出版，1976
- ・artscape 現代美術用語集
<http://www.dnp.co.jp/artscape/reference/artwords/index.html>
- ・フリー百科事典 ウィキペディア (Wikipedia)